



GII

# 第7回 全国ボートレース

# 甲子園

7/8(火)~7/13(日) ボートレースびわこ

ボートレース界の“夏の風物詩”として定着しつつあるボートレース甲子園がびわこを舞台に開幕する。GIIに位置付けられながらも、その出場メンバーはまさに全国選抜の名にふさわしい。今大会も全国47都道府県から選ばれた精鋭たちが、プライドと名誉を懸けて火花を散らす。



昨年2度目の甲子園制覇を決めた毒島誠

## V候補筆頭は毒島誠 馬場&遠藤が迎撃 注目は沖縄代表・上原峻

甲子園最大の特徴は出場選手の選出方法。各都道府県の代表という形式で選手がエントリーされるため、実績や勝率だけでは語れない多彩な顔ぶれがそろう。その中にはSG常連組も多く、GIIとは思えないほどのハイレベルなレースが毎年繰り広げられている。

優勝候補筆頭は昨年含む2度の大会制覇歴がある毒島誠だろう。昨年のグランプリキングは今年も元気がいっぱい。3月には尼崎、平和島とGI連続優勝を決め、オーラスター前時点で賞金4位を快走中だ。年末を見据えてここからが重要になる下半期の第一戦。今年もその実力と勝負強さで、群馬に3度目の優勝旗を持ち帰る。

地元・滋賀支部からは馬場貴也と遠藤工ミ、そして施行者推薦で丸野一樹が選ばれた。馬場は5月中旬時点でまだ今年の優勝こそないが1月の下関周年やクラシックなどここの一番ではしっかりと優出を決めている。地元水面への適応力と、SGウイナーとしての実績を併せ持つ実力者として、今節の走りには特に期待が集まる。遠藤は昨年女子GI2冠を達成したのは記憶に新しいところ。今年は正月と5月の当地オールレディースで優出(正月は優勝)と地元で結果を出している。混合戦でも臆することなく立ち向かう姿勢で、地元ファンの声援を力に変えるはずだ。丸野も地元なら気合はさらに入らさう。近況は一般戦でピンラッシュと好調で、卓越したターニングテクニックを武器に頂きを目指す。地元組以外でびわこを得意とし

# BOATRACE in BIWAKO

# 甲子園

## 甲子園出場選手

地区	都道府県	登番	氏名	支部	勝率
関東地区	北海道	5201	村上宗太郎	東京	5.21
	青森	4407	鹿島 敏弘	群馬	4.56
	岩手	3952	中澤 和志	埼玉	6.89
	宮城	4177	萬 正嗣	群馬	4.96
	秋田	4245	高橋 直哉	東京	4.85
	山形	4169	多田 有佑	東京	3.89
	福島	4444	桐生 順平	埼玉	8.06
	茨城	4159	向後 龍一	埼玉	6.20
	栃木	4532	秋元 哲	埼玉	6.72
	群馬	4238	毒島 誠	群馬	7.87
	埼玉	4573	佐藤 翼	埼玉	7.33
	千葉	4335	若林 将	東京	6.88
	東京	3590	濱野谷憲吾	東京	6.86
	神奈川	4266	長田 頼宗	東京	6.65
	新潟	4700	金子 和之	埼玉	6.33
	山梨	4401	小林 泰	東京	6.21
長野	3940	飯山 泰	東京	6.18	
東海地区	岐阜	4850	野中 一平	愛知	6.20
	静岡	4524	深谷 知博	静岡	6.94
	愛知	3941	池田 浩二	愛知	8.02
	三重	4024	井口 佳典	三重	6.93
近畿地区	富山	4611	今井 美亜	福井	6.07
	石川	4415	下出 卓矢	福井	6.31
	福井	4013	中島 孝平	福井	6.70
	滋賀	4502	遠藤 エミ	滋賀	7.03
	京都	4262	馬場 貴也	滋賀	7.40
	大阪	4719	上條 暢嵩	大阪	7.27
	兵庫	4290	稲田 浩二	兵庫	7.12
四国地区	奈良	3557	太田 和美	大阪	6.77
	和歌山	4865	立具 敬司	大阪	4.45
	徳島	4571	菅 章哉	徳島	6.80
中国地区	香川	4030	森高 一真	香川	6.56
	愛媛	4450	平高 奈菜	香川	6.99
	高知	4459	片岡 雅裕	香川	6.83
	鳥取	4584	村岡 賢人	岡山	6.65
	島根	3024	西島 義則	広島	6.84
九州地区	岡山	4166	吉田 拓郎	岡山	7.21
	広島	4205	山口 剛	広島	7.52
	山口	3942	寺田 祥	山口	6.78
	福岡	4350	篠崎 元志	福岡	7.23
	佐賀	4320	峰 竜太	佐賀	8.12
	長崎	4174	赤坂 俊輔	長崎	6.37
施行者希望	熊本	3611	岩崎 芳美	徳島	6.10
	大分	4256	渡辺 浩司	福岡	7.17
	宮崎	4364	池永 太	福岡	6.86
	鹿児島	4336	松田 竜馬	福岡	5.72
	沖縄	5096	上原 峻	東京	5.59
	群馬	4851	関 浩哉	群馬	7.61
愛知	4337	平本 真之	愛知	6.94	
京都	4686	丸野 一樹	滋賀	6.87	
高知	4685	島村 隆幸	徳島	6.84	
佐賀	4503	上野真之介	佐賀	7.66	

地元代表として優勝を狙う  
馬場貴也、丸野一樹、  
遠藤エミ



この他にもトップレーサーは数多く出場する。池田浩二や初のタイトル奪取に燃える上野真之介は今年に入ってから8点近い勝率を稼いでいる。4月の津周年でGI初制覇を果たした菅章哉や地元の住之江周年を勝った上條暢嵩も勢いは十分にあり軽視はできない。26代名人位を獲得した森高一真、A1級に復帰した濱野谷憲吾も覇を争う存在となりそうでハイレベルな争いは必至だ。

また、今大会で新たな歴史が動くのが沖縄支部だ。これまで第1回大会から出場していた前川守嗣に代わり、今回は初めて上原峻が代表に名を連ねた。沖縄県の若手

初の沖縄県代表に選ばれた上原峻



ホープとして注目を集めているだけにまさに飛躍のチャンスであることは間違いない。今大会中には30歳を迎え、選手としても脂がのりはじめる時期。全国舞台での活躍次第では一気にブレイクの可能性もある。

全国の代表が一堂に会する特別な舞台、ボートレース甲子園。びわこの夏を熱く盛り上げる、至高の6日間に期待したい。